

今朝、神様が用意して下さっていることにワクワクしますね。
使徒パウロが聖霊によって語っています。

ピリピ 4:19

また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。

これは有名な力強い御言葉で、これから見ていきますがパワフルな約束です。

私たちの理解を祝福して下さるように、共に祈りましょう。

愛する天のお父様、今朝共に御言葉を見ていくこの時間、あなたが私たちのいのちに語りたいと願っていることを受け取るために、へりくだった心と定まった思考、そして進んで従う心で御前に立ちたいです。

主よ、私たちが何にも煩わされないように、また心がさまようことがないようにして下さい。

どうか、聖霊によって集中することができますように。

イエスの御名によって。アーメン。

今日はいつもと違い、質問で始めたいと思います。

よく考えて下さいね。

クリスチャン人生で、理由が何であれ、正真正銘の必要を、神が満たされなかったことを思い出せますか。別の言い方で同じ質問をします。

あなたが主と共に歩んで来た日々を振り返った時、正真正銘の必要があって、叫んで祈り求めたのに、理由は何であれ、神が応えて下さらなかったことが1度でもありますか。

私が「正真正銘」という言葉を用いたことに注目して下さい。

これを用いたのは、私たちはしばしば“欲しいもの”、もっと言えば、願いを“必要”と誤ってしまっているからです。

私たちが頂いている神の約束は、「神様は、私たちの全ての“必要”を満たして下さい。」

神は私たちに正真正銘必要なものは、何であれ、全て与えて下さるのです。

このような約束は受けていません。

「私たちが欲しいものは何であれ、欲しい時に、欲しい色を、願っている方法で与えて下さる。」

ちょっと、5歳児みたいな感じでしょうか。

神様が恵みによって、私たちが欲しいと思っているものを与えて下さることがあるのは事実です。

心の願いをかなえて下さる時がある、というのはなおのこと、そうです。

しかし、詩篇の作者が言っているように、まず私たちが主にあって喜ぶ時、心に願いが置かれるのです。

詩篇 37:4 主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

注意して下さい。

これは、「私たちが願うことは何でも」ではありません。

「♪おお、主よ。ベントツを与えて下さい♪」

すみません。フラッシュバックしてしまいました。

神様は、あなたの心の願いを何でもかなえて下さるわけではありません。

違います。

神様は前もってあなたの心に願いを置き、その願いを喜びとし、そうして、あなたが主を自分の喜びとする時に、あなたの心に置いたその願いを叶えて下さるのです。

そういうことです。

すなわち、神はただ、それが御心であり、時にかなったことであり、ご自分の栄光になるならば、私たちが欲しいもの、願うもの、そして確かなことですが、必要とするものを与えて下さるのです。

今日は、そのことについて語っていきます。

事実、これが神の民の側の誤解の大きな要因となっています。

僭越ですが、私はクリスチャン人生の初期の頃、神様がなぜ祈りに応えて下さらないのか、全く理解できないことが多々ありました。

特に、御言葉の中に、「神は求めたものを与えて下さる」という約束がたくさんあるのに。

御言葉の中の多くの約束を誤解する時、そうになってしまうのだと思います。

ある人が数えたら、御言葉には3,000の約束があったそうです。

その事を考えてみて下さい。

しかし、それらの約束の多くは（敢えて“多く”と言いますが）、特定の条件とセットで来るのです。

条件付きの約束です。

たとえば、[ピリピ 4:6-7](#)

6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

約束はこれです。

私たちは、神様だけが与えられる平安を持つことができる。

ヨハネは言いました。

[ヨハネ 14:27](#)

わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。

わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。

これは、主だけが与えることのできる平安です。

パウロはこの平安を、「あなたの理解を超えるもの」と表現しています。

あなたの周りで色々なことが起こっているけれど、しかし平安なのです。

起こっていることに関係なく、あなたを平安に保つために、あなたの心に、人知をはるかに超える守りが置かれる。

それが約束です。

約束には前提条件が3つあります。

① 全てのことについて神に祈る

② どんなことも神に感謝する

神に全てのことを祈り、どんなことも感謝するなら、何も心配しなくなる。

それが条件付きの約束。

もう一つ③

非常に有名で、恐らく暗記され、歌われ、壁に張られている箴言でしょう。わが家の壁にも飾ってあります。

[箴言 3:5-6](#)

5 心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。

6 あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。

そうすれば、これが約束で、主があなたの進む道をまっすぐにされる。/ 主があなたの道を導かれる。

私はこの訳の方が好きです。主があなたの道をまっすぐにされる。

主が道を正される。

主があなたを取り巻く混乱を解決して下さる。

主が全てを正し、解決して下さる。

主があなたの歩みを導き、あなたの道を正される。

しかし、この箴言のパワフルな約束が実現するためには、また3つの条件があります。

① 自分の悟り（知性）に頼らない

何よりもまずこれです。自分の悟りに頼らないなら、

② 心を尽くして主を信頼する

私たちには悟りは全くないので、自分の悟りに頼ることはできません。

③ 行く所どこにおいても主を認める

これら3つの条件が揃うなら、この約束が実現するのです。

今日、私たちに示されている約束も全く同じです。

ピリピ 4:19

また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。

私はこの節を、私たちが果たすべき最初の条件とみなし、この約束が実現する前に、深く掘り下げていくのが良いと思います。

そうすることによって、神様が全ての必要を満たして下さるという約束が、どれほどパワフルで深いものか、より理解できると思いますから。

最初の条件は、1回読んですぐ分かるというものではありません。

条件 1) 比例する

意味を説明します。

これは一律に、十把一絡げに果たされる約束ではありません。

その理由は、パウロが非常に特定しながら語っているからです。

私の神は、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。

ここで特定しているのは、与える人です。

与える（献げる）人たちは、ピリピの人たちがしたように与えるので、神様はその人の全ての必要を満たすことによって、同じ報いをして下さるのです。

ピリピ人がパウロの必要を満たすのに比例して、神様はキリストにある豊かさで、彼らの必要を全て満たして下さいました。

これはイエスの言葉です。

“比例”“割り当て”を非常に強調していることに注意して下さい。

ルカ 6:38

与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。

詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。

あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。

与える時に用いる秤、基準、金額、分け前が、受ける時に用いられます。

イエスは更に深く踏み込んで、レベルを上げています。

与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。

詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。

いいですねえ。

あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。

私たちはこれが、主に金銭的に献げること、経済的支援に関連することだと知っています。

でも、どうか誤解しないで下さい。

これは、私たちが与えることや必要に関して、そして、私たちの全ての必要に対する神の供給と満たしに関して、一律に適用される原則なのです。

指摘しなければならないことが他にもあります。

それは、パウロがこの事をピリピ教会にのみ書かなければならなかったことで、これは興味深いです。

この特定の約束はテサロニケ教会、コロサイ教会、また絶対にコリント教会に書かれたものではなく、聖霊によって、唯一ピリピ教会だけに宛てて書かれたものでした。

ピリピ教会が裕福だったとは、一瞬たりとも思わないで下さい。

実際、彼らはとても貧しくて、犠牲と寛大さによって献げたのです。

なので、パウロはある箇所で、言わば“聖なるやり方”で、他の諸教会を恥じ入らせました。

Ⅱコリント 11:8 私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たのです。

他の教会とはピリピ教会のことで、私は彼らから盗んだと。

これは、かなり強い言い方です。

もちろん盗んではいませんよ。自由意思で献げられたものです。

しかし彼はここで強調しているのだと思います。恥じ入らせるための、神聖なる方法で。

皆さんが理解しなければならないのは、これらの手紙が書かれた時代は、手紙が届くと、教会の中で全員に向かって朗読されたということです。

そこにいる自分を想像できますか。

私なら、その日は「ああ、病欠にすれば良かった…」と思ったはず。

なぜなら彼はこう言っているのです。

「皆さん、私があなた方に仕えることができるのは、ただ唯一、あの教会が私に献げてくれた経済的サポートがあったからですよ！」

条件 2) どんな必要であれ、良いものでなければならない

言うまでもなく常識だと自覚していますが、にもかかわらず重要なことです。

簡潔に言うと、良いものでないなら、神様は与えません。

これが、必要を満たして下さる、という神様の良さを誤解する、主な理由でしょう。

私たちは祈り、必要だと思っているものを求め…神様の満たしや答えがないとがっかりする。失望する。

問題は、神様が知っていることを、私たちが知らないことです。

これが常識なのは分かっていますよ。

イザヤ 55:8-9

8 わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。

— 主のことば —

9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

神様の道は、私たちの道とは異なってはるかに高く、神様の思いは、私たちの思いとは異なるのです。言い換えると、私たちは神が考えるようには考えない。もし私たちが神のように考えるなら…想像できますか。当然ですが、皆終わりですよ。もし私たちが神のように考えるなら、神は神ではなくなる。神様の思いは、方法は、私たちの思いや方法とは違います。それは良いものであるべきで、そうでなければ神様は、私たちが思うがゆえに、与えることを止められるのです。

聞いたことがあると思いますが、私は神が祈りに応えて下さったことを感謝します。しかし時に、祈りに応えて下さらなかったことを、もっと感謝します。クリスチャンになりたての頃から（ですから37年間です）、書いている祈りのリストを読み返すと、「あんな事を祈ってすみませんでした。」と、神に謝っている自分がいます。あることを祈っている時、神様は「いやいや、やめといた方がいいよ。」「いいえ、欲しいんです！ 絶対の絶対に必要なんです!!」主は「No, No, No」私を担当している御使いが、天国で絶叫しているのが目に浮かびますよ。「やめとけ!! それを求めな!!!」「感謝なことに、神様はあなたが求めているものを与えない！ もし与えたら、あなたの人生は破壊されるから。」

これは例です。みなさんはそうではないと知っていますよ。私が言っているのは、宝くじが当たるように祈っている、肉的なクリスチャンたちのことです。それは祈ってはダメですよ。宝くじ当選者に何が起こったか、知っていますか。人生メチャクチャです。そういうテレビ番組があって、今もあるのか分かりませんが、昔チャンネルを替えている時に、「宝くじ当選者の人生—その末路」というシリーズに偶然出くわしたんです。彼らの人生は、完全に破壊されていました。私も思ってしまうのですが、「主よ、もし宝くじに当選させて下さるなら、什一献金します。」と思っているクリスチャンがいるはずですよ。

告白しなければならぬのですが、既に告白しましたが、私はクリスチャンになりたての時、ある領域で葛藤していました。私はあるビジネスをしていて、こう祈ったのです。すみません。皆さんに軽蔑されないといいのですが、赤裸々に話します。私はクリスチャンになったばかりで、未熟だったんです。ちゃんと言いましたよ。よろしいですね。「主よ、ベンツ 450SL オープンカー、ものすごく欲しいんです。」祈りました。「神様、ベンツ 450SL を与えて下さるなら、人々を教会に連れて行きます。」ほら、皆さんも似たような祈りをしたことがあるでしょ。ないんですか？では、祈って終わりにしましょうね。

私が聞いたこの言葉は、この件に関して、私を励ましてくれました。「神が知っていることを私が知っていたら、私も神と同じように、自分の祈りに対応していた。」

別の言い方では、神が知っていることを私たちが知っていたら、神は私たちが行う方法で、全ての祈りに応え、全ての必要を満たして下さい。

問題なのは、私たちが知らないということ。

神様は始めから結末まで、そして何が良いことで、何が良くないことかをご存知です。

ヤコブ 1:17

すべての良い贈り物（ただ良いだけではありません）、またすべての完全な賜物は（完全な賜物です）、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。

父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。

昨日も今日も永遠に同じお方は、考えを変えることはありません。

天の父は私たちが必要とするものを与えて下さり、それはいつも良いもので完全で、付け加えると、タイミングもいつも完璧です。

時に、正真正銘の必要に対して、そうです。

しかし神は、遅らせることが必要だと判断されます。

イザヤ 30:18 それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、

私たちが恵むことができるように。

要するに、神様が答えを遅らせるからといって、否定しているわけではないということ。

理由があって遅らせているのです。恐らくしばらくの間。

ある人が言った格言が好きです。すごく良くて、全くその通り。

あなたには正真正銘の必要があって、それを神様に求めました。

神様は「まだ時じゃない。待ちなさい。」と答えるかもしれません。

もしくは「あなたは間違っている。成長しなさい。」「間違った要求だ。与えない。」

だけど、タイミングが合っていて、あなたも正しく、要求も適切なら、神は「OK」と言われます。

神があなたの祈りに応えて下さっても、あなたはそれが気に入りません。

神様は3つの方法で応えられます。

1. 「Yes」

2. 「No」: 「なぜダメなんですか?!」あなたのためにならないから。本当ですよ。

3. 「Wait/待ちなさい」

神様はそう答えられるかもしれません。

私はこの言葉が大嫌い、待つのが大嫌いです。

昔、本土でクリスチャンになりたての頃に葛藤を覚えていた領域を、神が乗り越えさせた時の事を、先週ある方にシェアしました。

私はすごくせっかちで、いつも急いでいて、待つのが大嫌いでした。

スーパーのレジに並ぶと、主任に確認してもらわないといけないジンバブエの小切手を持った人が、必ず前にいるんです。

それで、ちょっとズルをして別の列に移ったら、もっと悪い。

さっきの列で、私の後ろにいた人が前にいる。

そうして、私から聖さが去って行くんです。

これでよし。胸の内を明かしたら、スッキリしました。

とにかく待つのが大嫌い。

神様がデザインナンバープレート(自分で文字指定するナンバープレート)を用いて、あなたを悟らせる時

は楽しくないですよ。

分かりますよね。

今まで見たこともない車を用いて、神があなたに語るのです。

サイレンを鳴らして前に割り込み、速度を落とさせた車のナンバープレートは「H2W8」

「Hate to Wait」(待つのが大嫌い)

家の目と鼻の先で、毎日そこを運転していましたが、その車を見たのは後にも先にもその時だけでした。

私は、あの車は私に遣わされた御使いによって運転されていたと確信しています。

私の気を引くために。

なぜなら、私は頑固で、分からず屋で、鈍感になり得るからです。

誰も、今私が言った車のことを理解できる人はいません。

神様は何とかして、私の注意を引かなければならなかったのです。

このように、時に、神様が私たちのためにできる最善のことは、「まだ早い。待ちなさい。」と言うこと。

その後、必要を満たすために、神にしかできない方法で力強い御手を動かされる、その時はすごいです。

御言葉の中で好きな約束の一つは、

ローマ 8:32

私たちすべてのために、ご自分の御子をさえも惜しむことなく死に渡された神が、

パウロが聖霊によって修辞疑問文で書いていることをよく聞いて下さい。

どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。

つかめましたか。

言い換えるなら、あなたには必要があり、私にもあります。

あなたの必要は経済的なものではなく、別のことかもしれません。

長年祈り、叫び求めてきた放蕩息子や放蕩娘。

救われるように祈ってきた、愛する家族。

体の癒し、力強い癒しの御手に触れられること。

聖霊の平安、慰め、また力。

あなたの必要が何であれ、それをこの約束に重ね合わせて下さい。

なぜならこの約束が言っているのは、「この世をあまりにも愛したゆえに、ご自分のひとり子をさえも惜しまなかった神が、あなたに他の良いものを1つでも与えないことがあるだろうか。」

私と一緒に、論理的に考えてみて下さい。

あなたには必要がある。

あなたの最大の必要は救い主。

神は、救い主であるご自分のひとり子を惜しまなかった。

ですよ。

「我々の最大の必要は、神の最大の偉業である。」 “Our greatest need was His greatest deed.”

来て、死なれ、私たちの全ての罪の代価を全額支払って下さった。

私たちの最大の必要は、神の最大の偉業なのです。

繰り返しますが、使徒パウロは、ほとんど聖なる皮肉を言っているのですよ。

すごく皮肉って、「ご自分の御子をさえ惜しまなかった神が、あなたにその必要を与えて下さらないはずがないってことが、どうして分からないんだ?! 考えてみなさい。」

「ああ、主よ、私は毎時間、あなたが必要なんです！」

主に叫ぶと、“わたしの意思で、わたしのひとり子を遣わした” という旗印の下、その叫び声に耳を傾けて

下さるのです。

もう1つの考察です。

私たちは、あのラッパが響くと、まずキリストにある死者がよみがえり（預言アップデートでもこれを少し語る予定ですが）、生き残っている私たちが空中で主と会い、主といつまでも共にいるために引き上げられる、携拳されると信じていますね。

神様がそうして下さると信じている。

なのに、今月の家賃に関しては、主を信頼することができない。

私たちの必要に関しては、主を信頼しない。

つじつまが合わないでしょう。

どうして神様が、良いものを出し惜しみされるのですか。

良いものは、神様からのものです。

何であれ良いものなら、神は与えて下さいます。

それが良いものなら、受けることができます。

昔のトヨタのCMみたいですね。

「♪ You've got it TOYOTA ♪」すみません。

良いものであるなら、神は満たして下さいます。

さて、これらの条件が満たされた時、「全ての必要を満たす」という神の壮大な約束を確信することができますようになります。

それだけでなく、供給源が無尽蔵、無限であることを確信できるようになるのです。

言い換えると、

ピリピ 4:19

私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。

パウロがエペソ教会に言っていることを聞いて下さい。

エペソ 3:20-21

20 どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、

全てを越えて豊かに。時に 10 乗から 20 乗ほども際限なく。

21 教会において、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン。

私たちが自由に得ることができる、私たちに与えられた富。

私たちが思うところのすべてをはるかに超えて豊かに。

考えて下さい。

私たちが願うところを超えて…

時に神様は、私たちが願ってもいないことを与えて下さいます。

自分でもそれが必要だとは知らず、思ってもいない。

私たちが願うところ、思うところの全てをはるかに超えて豊かに、です。

私のお気に入りのたとは **Ⅱ列王記 4:1-7**

弱い立場の未亡人が、預言者エリシャに叫んでいます。

債権者が、彼女の2人の息子を奴隷にしようとしているから。

当時は破産というものはなく、再建するための連邦破産法第13章や第11章はありませんでした。

借金を返済できないなら、息子を奴隷として引き渡さなければならなかったのです。
息子がいないなら、あなたが奴隷として売られます。
彼女には借金返済のお金が1銭もなく、債権者が息子たちを連れて行こうとしていました。
それで彼女はエリシャに叫んだのです。

エリシャは「家に何がありますか。」と聞きました。
「何もありません。油が少し入った壺が1つあるだけです。」
エリシャは「空の器を借りて来なさい。それも1つや2つではなく、借りられるだけたくさん。」と具体的に指示し、彼女はその通りにしました。
それから、油がほんの少ししか入っていなかった自分の壺から、借りて来た器に注ぎ入れ、注ぎ続けたのです。
満杯になった器は脇によけて、次の器に油を注ぐ。
借りて来た器がなくなるまで続けました。
空の器がなくなった時に油は止まった、と書いてあります。
エリシャは「行って、その油を売り、負債を払いなさい。」
そうしたら、彼女が生涯暮らしていけるだけの分も残ったのです。
彼女は言われるとおりにして、息子たちを救うことができたのでした。
彼女にとって油は正真正銘の必要でした。

私たちには神様が全ての（全てですよ）、正真正銘の必要を満たして下さるといふ、絶対的保証がありません。
この話は、彼女がもっとたくさんの器を用意していたら油は流れ続けたのに、とそれとなく言っているように、私には思えるのです。
私たちも、この未亡人のようですね。
器をもっと持っていたら、もっと満たされた。
これを言う理由は、先程お話しした「求めれば私たちのものである」という無尽蔵の供給の事を語っているからです。
お分かりでしょうか。
残念ながら私たちの多くは、ヤコブが語っていることに当てはまるはずです。
ヤコブ 4:2 **自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。**
私が求めることができた全てのものを、主は示して下さっていましたが、私が求めなかったので得ることができませんでした。
神様は油を注ぎ続けようと、無尽蔵の供給を持って、ここで待っておられるのです。

ゼカリヤ書（4章）にこんな場面があります。
彼らは9年間労苦して建設しているけど、何の進展もないように見えるので、ゼカリヤも全イスラエルも落胆していました。
すると神が彼に現れて、2本の巨大なオリーブの木を見せました。
その下には大きな金の鉢があり、真ん中には1つの燭台。
オリーブが鉢の中に落ちて搾られ、光を灯し続けるための油が燭台に無尽蔵に供給されていました。
聖書では、油は聖霊を表します。
私たちのものであるこの無尽蔵の供給は、私たちの内におられ、力づけて下さっている聖霊様を通して与えられるのです。

最後に言わせてください。

